

酪農教育ファーム 北海道推進委員会 事務局通信

ほくほく通信

平成30年12月26日発行

酪農教育ファーム北海道事務局
札幌市中央区北2条西2丁目1-1
ハクオウビル3階
TEL: 011-218-6023
FAX: 011-241-6778

~今年度開催された3つの研修会の様子をご報告します!~

今年度は8月から11月にかけて、①8月3日(金)～4日(土)に南十勝の4件の酪農家にご協力いただきアニマドーレ対象研修会を、②10月13日(土)に札幌市とむらかみ牧場(恵庭市)を会場に教員対象研修会を、③11月3日(土)に江別市のとわの森三愛高等学校を会場に牧場間の交流を目的にした研修会、合計3つの研修会を開催いたしました。北々通信では研修会の様子をかいつまんでご紹介!(詳しくはホクレンさん発行の開催報告をご覧下さい。)体験会場をご提供いただいた酪農家の皆様、運営・講師としてご尽力いただいた皆様、ご参加いただいた酪農関係者の皆様本当にありがとうございました。



アニマドーレ対象研修会

会場: よつ葉乳業十勝主管工場、ナウマン温泉ホテルアルコ(幕別町)

受け入れ酪農家: i-ふあーむ岩谷牧場(幕別町)、井田牧場(幕別町)、岡田牧場(広尾町)、菊池ファーム(広尾町)



8月3日(金)～4日(土)の2日間、札幌市に住む中学・高校生10名を対象とした研修会が十勝にて行われました。アニマドーレとは、生産者と消費者をつなぎ食の大切さを伝える活動を行っている人達です。事務局はコープさっぽろの広報誌“ちよこっと”の編集・発行を行う(株)のこたべが務めており、今回の研修会はそこからの依頼により実現。一泊2日のファームステイ型の研修会の開催は北海道推進委員会では初めての試みではありましたが、短時間の体験では知り得ない酪農の奥深さに触れることで、働くことの大変さんはもちろん、自分の考えの変化を感じたという声が多く、私達の生活はたくさんの人やいのちに支えられているということを肌で感じることができた二日間となったようです。今回受け入れを引き受け下さった4件の酪農家と運営のためにご参加いただいた方々は以下の通りです。

【受入酪農家】



i-fu-a-ru 岩谷牧場
岩谷 史人 氏

井田牧場
井田 寿美恵 氏

岡田牧場
岡田 千春 氏

菊池ファーム
菊地 亮太 氏、亜希 夫人

【運営・見守り参加】

○むらかみ牧場 村上 隆彦 氏

○帯広市立つづじが丘小学校 校長 野上 泰宏 氏

○(社)北海道栄養士会 山際 瞳子 氏

○アニマドーレ 森 清史 氏 他事務局3名

乳業工場見学

帯広駅到着後、早速よつ葉乳業十勝主管工場へ出発!

食卓に並ぶ牛乳・乳製品の“当たり前”を守るために
乳業が担う役割を学びました。



対面式

村上委員長と野上先生より挨拶をいただき、酪農家の方々の紹介を行いました。



短い時間ですが北海道の農業を代表する酪農で
いろんなことを吸収してください。

ただ話を聞いて見るだけではなく、積極的に五感を使った体験を大事にして下さい。また、体験中に感動や驚き、違和感等を感じたら、なぜそう思ったのか自分自身に問いかけてみて下さい。そうすることで単なる体験ではなく、自分の社会観や人生観を変えるきっかけになるはずです。



閉会式



アニマドーレ
森さん

食べることの大切さや、いただきます・ごちそうさまの意味、毎日こうして牛乳を搾ってくれている人がいることを感じながら、普段の食生活を見直してほしい。また、これをきっかけに、自分でどんなことを仕事にしたいかを考えるきっかけになれば良いなと思います。

今回皆さんに知識を得ながら実践(体験)して知行合一になった。この2日間の経験から、自分たちは今までどういう風に考えて勉強してきたか?何を食べて来たか?など身近なことから見直してほしい。そこから自分がどのように実践していったら良いのか・実行できるかと言うのを考えてほしい。この体験がますます活かされるように期待している。

推進副委員長
山際先生



～感想発表会・アンケートより～

参加学生からの声

- 酪農家は牛とゆったり過ごす仕事だと思っていたが、牛やエサのことを考えながら大変な作業をしていることを知った。本当に疲れたり、買った食べ物を無駄にせず残さず食べようと心から思った。
- 今まで食べることを一つの作業として考えていたが、生命の活力をいただいていると考えるようになった。
- 人と同じように顔も性格も違い、牛一頭一頭に個性があることを知った。
- こういう機会があって良かった。もっといろんなことにも挑戦したいと思えた。

酪農関係者からの声

- 一番大事にしていることは「牛はミルクを出す特別な生き物ではなく、人間と同じ」ということを伝えること。
- 普段の仕事をなるべく最後までやってもらう中で参加者それぞれが何かを感じてくれたら良い。余裕が出てきたら牛を見てもらい、行動から感情を想像してもらうようにしている。
- 牛乳は生き物だからきちんと消費してもらうことで生産が続くということを理解してもらいたい。
- 牧場にいる時の方が顔がイキイキしていた。教室の授業では味わえない実体験が本人達の感性を刺激することを改めて感じた。



教員対象研修会

座学会場 TKP札幌駅カンファレンスセンター
酪農体験 むらかみ牧場（恵庭市）



10月13日（土）札幌市内の小・中学校の教員11名を対象に教員対象研修会が行われました。本年度の教員対象研修会は、授業と結び付けやすいように、事例紹介や酪農を取り口にした授業作りについて参加者自ら考えてもらい、そのアイディアの発表会を行いました。午後からは希望者を対象に恵庭市のむらかみ牧場にて酪農体験を行いました。途中、札幌市立山鼻南小学校の課外活動の子ども達と合流し、一緒に体験を行うことで実際の子ども達の反応を見ながらの体験となりました。参加者の感想には酪農の教材としての万能性を知ったという声や、他の先生方の様々なアイディアを聞いてとても参考になったという声が多く、参加者それぞれが受け持つ生徒を見据えた具体的なイメージを持つことが出来た様子でした。今回ご参加いただいた方々は以下の通りです。

○むらかみ牧場（恵庭市） 村上 隆彦 氏
○大友牧場（芽室町） 大友 亜弥 氏
○北海道教育大学岩見沢校 特任教授 田山 修三 氏

○藤田牧場（鹿追町） 藤田 多恵 氏
○帯広市立つじが丘小学校 校長 野上 泰宏 氏
他事務局3名

開会挨拶 推進委員長 村上隆彦さん

『私たち受け入れ酪農家側ではわからないことも含めて野上先生と田山先生に酪農教育ファームと言うものを掘り下げてお話ししいただきます。せっかくの機会なので教育の中で活かしてもらえる酪農や牛、私たちの取り組みを含めて勉強をしていっていただければと思います。』



酪農教育ファームの意義と教育効果について 講師：野上泰宏先生

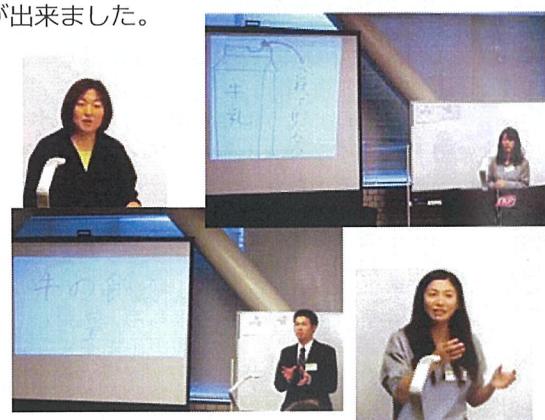
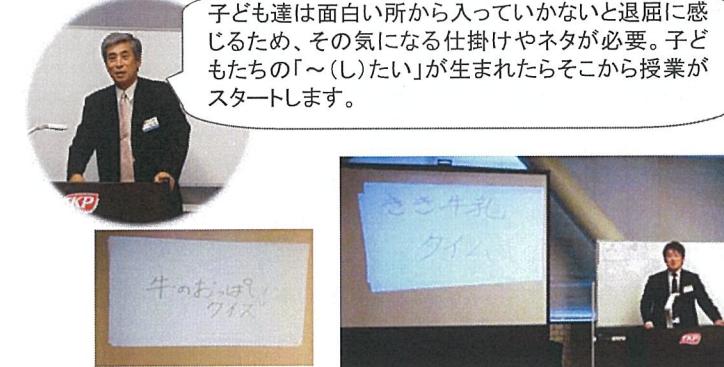
…学校側から見た酪農教育のメリットや、教員が酪農教育の取り入れを進める上で直面する可能性がある壁や悩みと、その解決のヒントを教育者の目線から具体的に示していただきました。

酪農教育ファームの学習内容は食といのちであり、本校では特に命のあたたかさに注目しています。単に命をいたぐる、生きる死ぬだけではなく、牛乳そのもののあたたかさに子ども達は意外と感動するもの。また、酪農業はいろいろな職業の人が関わりあって成り立っているため、職業と地域というつながりなどもトータルして学ぶことが出来るのも一つの魅力です。このように酪農から学べることは多岐にわたるため、何を学ばせるかを明確にしていかないと、体験だけで学びがなくなってしまいます。

酪農教育実践について 講師：田山修三先生

…『子ども達の興味をそそる授業』をテーマに酪農を取り入れた授業作りのアイディアを参考してもらいました。発表にはKP法（紙・プロジェクト法）を用いて、それぞれが「こういう入口にすれば子ども達が興味を持ちそう」「これを授業ですると喜んで自ら考えそう」などたくさんのアイディアが次々と発表され、そのアイディアを参考者同士で共有することが出来ました。

子ども達は面白い所から入っていくかないと退屈に感じるため、その気になる仕掛けやネタが必要。子どもたちの「～(し)たい」が生まれたらそこから授業がスタートします。



酪農家のお話 昼食を交えながら、今回ご参加いただいた3名の酪農家の方々より、受け入れ活動を行う理由や、牛と酪農に対する思いをお話しいただきました。



大友さん

6月に酪農家に嫁ぎ、今現在認証をとる準備をしているところ。動物が好きと言う理由だけで入学した農業高校でサクラと言う牛と出会い、そのしぐさや伝わってくる体温に一瞬で牛の虜になった。その後、サクラが廃用になってしまったことを機に『経済動物の幸せって何か?』『経済動物と人間はどう関わっていくべきなのか?』と考えるようになり帯広畜産大学に進学した。サクラと出会って13年、牛からたくさんことを学び、酪農や牛に十分すぎる位の教育的価値があると身を持って実感している。今度は私が牛から学んだことを人に伝える番かなと思っている。これから頑張って人に伝えている牧场にしていき、芽室町の小・中・高と連携して、芽室の子供たちに伝えていく活動をしていきたい。

もともと千葉で教職などをしていたが、鹿追へ引っ越したことを機に酪農家と出会い、牧場に嫁いで5年目になる。いざ酪農の世界に飛び込んでみると、本当に知らないことばかりだった。牛は人のために命をかけて仕事をして、赤ちゃんが出来なくなったら廃用になる運命。それを目の当たりにした時に、これは絶対に学校の先生や保護者にも知ってほしいという想いが芽生え、まずはファシリテーターの資格を取って自分が出来ることからやっているところです。



藤田さん

酪農体験受け入れの原点は、実は今お話ししいただいた大友さんや藤田さんのような存在がきっかけで、別の世界から酪農の世界に入ってきた時に抱えるいろんな葛藤や疑問をまわりの酪農家にぶつけてきたのが始まり。道内では約60件の酪農家が認証牧場として活動をしている。やり方は牧場それぞれだが、それぞれのいろんな熱い想いを持って活動を行っている。助成金制度もいくつかあるので是非積極的に利用してほしい。

酪農体験 (牛の観察・搾乳・子牛のエサやり・バター作り)

希望者を対象に会場をむらかみ牧場へ移し、実際の酪農体験を実施。移動の車内では9月に発生した胆振東部地震の話を糸口にホクレンの高橋さんが紙芝居『牛乳が消えた日』の読み聞かせを行いました。また、札幌市立山鼻南小学校の課外活動の子ども達も一緒に体験を行いました。牧場に着くなり鼻をつまんでいた子ども達が体験に夢中になって楽しんでいく姿や、自ら牛に顔を当てて体温を感じている姿を実際に見てもらうことで、より具体的に授業に取り入れるためのイメージを持ってもらえた様子でした。



～感想発表会・アンケートより～

参加教員からの声

- 他の先生の話も聞いてとても勉強になった。教科を超えてどこでも当たはまるともに、それらを工夫する面白さを感じた。想像以上に普段の学習に取り入れやすく、酪農教育を身近に感じた。
- 牛たちが人間のために命をかけていることについては残酷な部分も多いので敬遠されがちであるが、今日の酪農家のお話を聞いて、だからこそ学ぶべきだと感じた。
- 実際に働いている酪農家さんのお話はとても価値があると感じた。そのまま生徒に話して頂きたいくらい。
- 初めての乳搾り体験をしてそのあたたかさと感触に驚いた。子ども達が夢中になるのも納得。
- 事前に話を聞いてからの体験でしたが、いざ牛目の前にすると牛の体温や息遣いからいのちを肌で感じることで、事前の学習が生きてくるように感じた。

酪農関係者からの声

- 牛と言葉一つの動物から様々な授業につながることがわかった。
- 全てが勉強になった。教員の皆さんと交流できたのが楽しかった。
- 参加者の酪農体験のすばらしいアイディアに驚いた。是非実践してもらいたいし、良い実践が期待できる。
- 体験を通して、私達酪農家は牛を大切に育てているということと、牛乳や乳製品を食べた時に牛乳はどうやってできるのかを思い出してもらえるようになってほしい。

『Re:酪農体験』

…映える酪農体験、写真はスクエアで。 ～答えは高校生に聞け！！～

会場：とわの森三愛高等学校（江別市）

11月3日（土）、17名の酪農関係者と9名の高校生にご参加いただき、酪農教育ファームを軸とした酪農関係者の交流を目的とした研修会が行われました。初の試みである当研修会では、顔を合わせて情報交換をする機会が少ないという現状やご意見を踏まえ、活動年数に関係なく様々な世代が一緒になって改めて『酪農体験』を考えることで、実際にやっている活動のアイディアやそれぞれの牧場がどのような思いでどんな活動をしているかなどを話すことができました。

ここでは酪農家さん達にお話しいただきました近況をメインにお伝えいたします！

開会式&自己紹介 村上委員長の挨拶後、高校生を含めた全員でアイスブレイクを兼ねた自己紹介を行いました。話すテーマは「最近の嬉しかったこと」「失敗したこと」。初対面の方々や久しぶりの再会の方が多い中で、日々の仕事で共感できる話やお祝い事など、それぞれの日常を垣間見るひと時でした。

むらかみ牧場（恵庭市） 村上 隆彦 氏 小学生の時にうちで酪農体験をしたことをきっかけにとわの森に入学した生徒を、今年伊藤先生が一週間の実習に連れて来てくれた。活動を長くやっているとたまにこのような話を聞くようになり、心底幸せだと感じる。

岡田牧場（広尾町） 岡田 千春 氏 最近の嬉しかったことは一昨日に結婚記念日を迎えたこと。

白馬牧場（大空町） 白馬 照康 氏 無角牛が続けて2頭生まれたことが最近の嬉しかったこと。少しずつ牧場の無角牛が増えています。

明郷伊藤☆牧場（根室市） 武藤 友美 氏 最近反省したことは、酪農体験に来たカップルの彼女が無口で物静かな方だったので、彼氏の方とばかり話していたら彼女が怒って体験中終始テンションが低く話も出来なかつたこと。話術やコミュニケーション不足だと感じた。これからも精進していきたい。

とわの森三愛高校（江別市） 伊藤 有輝 氏 最近の嬉しかったことは総会で優秀牛群の表彰をされたこと。失敗したことはバルクにホースをつなぎ忘れたまま搾乳を始めたまま妻に怒られたこと。

石川ファーム（津別町） 石川 賢一 氏 有機酪農をしている。先日の震災の影響で明治の有機牛乳がしばらく製造されなかつたが、10/2からようやく製造が再開して店頭に並んだ。ようやく元通りになつてほつとできたことが最近一番うれしかったこと。

ハイジ牧場（長沼町） 佐藤 友美 氏 今年の4月からハイジ牧場で働いており、以前は小樽水族館で飼育員をしていた。最近の嬉しいことは、子牛が生まれる瞬間にたくさん立ち合えたことと、乳製品を先輩に教わりながら作っていること。自分が体験を楽しんでいるような日々を送っている。

とわの森の卒業生で、妻と知り合つたのは生徒会室。現在ロボット牛舎の建築をしていて、3月の稼働が楽しみ。

新妻牧場（足寄町） 新妻 札隆 氏、麻衣子 夫人

現在妊娠中で激しい運動を控えているところ。最近うれしかったことは、息子が2歳になったこと。

(社) 北海道栄養士会（札幌市） 山際 瞳子 氏 今日の研修会でどんなことが学べるか、私自身も楽しみにしている。

i-ふあーむ岩谷牧場（幕別町） 岩谷 史人 氏 昨日の夕刊に載りました。機会があれば読んでください。

ますこ牧場（大空町） 増子 昭雄 氏 ファームズ千代田（美瑛町） 長谷川 卓 氏 先日のシンポジウムに全国からたくさんの方に来てもらって20周年の節目を迎えたことが最近の嬉しかったこと。スタッフ同士で一体感をもってお祝いできた。

(有)オフィス ラ・ポート（東京都） 松原 明子 氏 教員をしている。今年、農場でソルガムという北海道では寒くてうまく育たない品種ができた。これをうまくサイレージにして牛に食べさせたい。

Aグループ 選択テーマ「中2の30名が 北海道の第一次産業について学ぶ」

- 第一次産業（酪農・農業・漁業・林業）が互いに関わり合いながら成り立っていることが理解できることを目指したプログラム作った。
- おが粉の寝床作り、たい肥を使った野菜の収穫、ホタテの貝殻の石灰の散布などを行う。

Bグループ 選択テーマ「府県の高校生30名が 修学旅行で仕事体験をする」

- 牛の性格や酪農について知つてもらうことに焦点を当てたプログラムを作つた。
- まず始めに注意事項と手足の消毒を行う。
- 体験の最後には牛の一生についてを話し、私たちちはいのちをいただくことで生きているということの理解につなげたい。

Cグループ 選択テーマ「小5の30名が食育授業で 毎日の給食の牛乳について学ぶ」

- 「そもそも牛が出してくれる牛乳ってどんなもの？」という質問を子ども達に考えてもらい、栄養の話から「牛乳は体に良いので飲もう」ということをゴールに学びを進める。
- 体験ではおいしい牛乳を出してもらうために牛の環境を整える仕事をしてもらう。

Dグループ 選択テーマ「家族連れが子どもの 夏休みの自由研究で牧場にやつてきた」

- 子どもが楽しみながら酪農を学ぶことを大切に考えたプログラム。
- 楽しむために安全面の注意は最初に指導
- 牛とのふれあいでは、体温でいのちを感じてもらいつながら最後には肉になる現実も伝えることで普段の食事といのちを結び付けたい。

関係者の皆様のご協力のもと、今期は3つの研修会を無事に終えることが出来ました。ありがとうございました。残念ながら今回はご参加いただけなかつた方もまた来年ご検討の程よろしくお願いいたします！ 今年も残り数日となりました。2019年が皆様にとっても最良の一年となりますことをお祈りしております。

事務局通信アンケート

(平成 30 年度)

今回のお便りはいかがでしたか？

当推進委員会が主催する研修会は皆様からのご意見や参加等、ご協力の上で成り立っています。皆様からの「こんなことを知りたい」「こんな交流をしてみたい」「こんな人を集めてみてはどうか」など日常で感じられていることなどがございましたら、お気軽にアンケートにご記入下さい。もちろん最近の出来事や通信のご感想等どんなことでも構いません。

以下のお好きな欄にご記入の上、FAX でご返信下さい。

牧場名

と

お名前.....

1. 今回の掲載内容はいかがでしたか？

ご感想やご意見、ご要望がありましたら自由にご記入下さい。

(例：こんな内容を載せてほしい、こんな情報がほしい、字が小さい等)

2. 皆さんの牧場自慢や教育ファーム活動の体験談、研修会や他の牧場にも
オススメのプログラム等ありましたらご記入下さい。

ご返信先

酪農教育ファーム北海道事務局

FAX : 011-241-6778

TEL : 011-218-6023

3. 推進委員会主催の研修会や活動について、ご意見、ご要望がありましたら
ご記入下さい。今後の参考にさせていただきます。

(例：こんな内容をやってみたい、ここで開催してくれたら参加できるのに等)

4. その他、酪農教育ファーム活動や事務局へのご意見等自由にご記入下さい。